

審査の結果の要旨

氏名 レ チ キューン

本論文はベトナム・ハノイの大都市圏周縁部に存在する伝統的な農村集落が市街化の波の中に飲み込まれていくプロセスを克明に跡づけ、集落固有の特性が市街化の過程でどのように変容していったのかを複数の類型を建てることによって、明らかにし、今後の都市計画において、場所のアイデンティティを保持していくための方策を提起したものである。

論文は研究の枠組みを述べた第1章、用語の定義を行い、ベトナムの市街化一般を述べた第2章と、具体的な実地検証を行った第3章から第7章までと、結論を述べる第8章によって構成されている。巻末に具体的な資料および参考文献を掲載している。

第1章は、序説であり、都市化の世界的な状況を概説している。その中で、変化と伝統とをどのように調和させるべきかという、本論文の大きな問題提起が述べられている。

第2章では、まず方法論について述べ、建築や都市計画を中心とした形態学的変化を追跡すると同時に社会経済的な都市の変化を跡付け、両者の関係を明らかにすることを示した後に、ベトナムの都市化の概況を明らかにして、同方法論の適用の正当性を述べている。

第3章から第7章までは、ハノイを舞台とした実証研究の成果である。

第3章においては、新資料である20世紀初頭の集落絵図を題材として、ベトナム北部の伝統的農村集落の構成要素とその形態とを実証的に明らかにしている。同時に、1930年代の建築調査研究の資料をもとに、典型的な農家建築のプランを明示し、これと集落構造との関係について、一定の関係性が存在することを明らかにしている。

第4章では、20世紀初頭以降の社会制度の変遷を概説している。特に、社会主義政権の樹立による所有権の変遷、地方自治制度の変遷、都市計画制度の変遷に光をあてて、都市近郊の農村集落のその後の物理的変容の背後に存在していた社会的な制度の変遷を概括している。

第5章では、第4章で述べた社会的変化をハノイについて詳細に跡付け、都市とその拡大の歴史を明らかにするとともに、大ハノイ都市圏に飲み込まれていった既存の農村集落のその後について、これをアーバン・ビレッジと呼び、その特性を建築様式、集落形態、地価、人口密度などの側面において明らかにしている。

第6章と第7章は、具体的にハノイ縁辺部の2つのかつての農村集落が都市化の中で変容していく様を初めて実証的に明らかにしたものである。いずれも19世紀末からの6, 7種類の歴史地図を基に、具体的な市街化のプロセスを詳細に明らかにするとともに、現

時点における現地調査を基に、基本的な集落の構成要素が現在どのような状態に置かれているのかを細かく明らかにしている。同時に、社会調査によって集落内部の社会構成や居住歴、外部からの移住の様子を明らかにしている。

その結果、相続による土地利用権の分割の様子や共有空間の用途の私有化のプロセスが具体的に明らかになった。加えて、これらの変化のプロセスがどのような細街路を発生させ、道路パターンの変化の様式としても固有性を持つことを明らかにするとともに、当該地域に建つ建築様式の変化としてもとらえることができ、地区固有の街路景観を形成するに至っていることを、数多くの事例によって明示的実証的に示している。

結論を述べる第8章では、ハノイ近郊における市街化の具体的なプロセスが明示され、さらに農村集落から見ると、どのような変容が起こり、農村集落の構成や形態が都心との距離関係や周辺の土地利用などの立地条件によってどのように変化し、いかなる類型にわけることができるのかを示している。

以上、本論文は、これまでに使用されていないベトナム・ハノイにおける集落絵図や歴史的地図を駆使することによって、初めて歴史的な農村集落がハノイ近郊において、どのようなプロセスを経て、市街化が進行していくのかを歴史地理学的かつ都市形態史的視点に立って明らかにした労作であると同時に、こうした歴史的な資料を都市史的な観点から使用する場合の方法論を明らかにした初めての著作として貴重である。今後のベトナムにおける都市史研究の水準をいっきに高める価値の高い論文であると言える。

よって本論文は博士（工学）の学位申請論文として合格と認められる。